

学校評価シート（自己評価）

十文字女子大附属幼稚園

1、園の教育目標

幼児の自主性、自発的な活動を大切にする保育の実践を基本目標とする。

幼児が自分達で考えた自由な遊びを中心とした園生活の中で、小学校就学までに幼児として必要な全てを身に付けさせることを目指して、家庭と密に連携しながら、次の教育を行う。

1. 保育者は、幼児一人ひとりの個性、能力を認めて無理させずに個々に対応する保育を心がけて長所を伸ばし、幼児が友達と深く交わって遊ぶ中で協調性、考察力、忍耐力、相手を受け入れつつ自己を主張できる社会性が身に付くように援助する。
2. 保育者は、本園の自然に恵まれた環境を十分に活かし、安全に成長が出来るように関わり、幼児が四季の移り変わり、生物への関心など周囲の環境に対しての探究を深められるように援助する。

2、具体的な目標や計画

1、教育・保育活動を充実させる取り組み

- ・保育者自身の向上に努める
- ・協力して全力で保育にあたる人間関係、環境を整える
- ・外部への情報発信とともに、外部からの意見聴取の機会を設ける。

2、保護者との連携を推進する。

- ・保護者の生活形態の変化に対応する。
- ・保護者の育児の向上につながる情報を提供する。

3、地域との連携を推進する。

- ・近隣の様々な関係者との連携、連帯を深める。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果 (※)	結果の理由
講習・講演・参観等に参加した職員が、職員会議等でその内容を周知する。	B	教員体制に余裕（育休4名）がなく、講習・参観等外部研修に出る機会を持てなかった。その分、園内での研修（保育を語る会）を定期的を実施した。各学年の保育を共通理解した上で、見通しを持って保育に当たれるようになった。
朝、業務開始前に情報共有のため、朝礼を行い、職員間で各クラスの保育予定を伝えあうようにする。	A	朝礼で学年・クラスのその日の保育の予定について情報交換するようになったことで、これまで以上に園全体の保育が有機的につながるようになって、協力して保育にあたるようになった。

<p>ブログ「タートルだより」の内容を工夫し、外部の方々に本園の保育をより理解していただく。</p>	<p>A</p>	<p>教員体制に余裕(育休4名)がない中、行事の様子に加え、日常の子どもたちの遊びの実際をブログ「タートルだより」に上げ、「遊びを中心にした本園の保育」を保護者を含め外部にも発信し、理解を広げられるよう努めた。</p>
<p>平成30年度自己評価、関係者評価を実施し公表する。</p>	<p>A</p>	<p>ホームページ上に、公表した。</p>
<p>おるすばん保育の「きりん組」について、4月の中帰りから始める。また、誕生会の日は午前中から「きりん組」を実施する。</p>	<p>A</p>	<p>幼児教育無償化の影響もあり、「きりん組」の希望者が増加傾向にあった。仕事、兄弟の保護者会、その他の諸々の事情等、保護者の要望も多様化しており、その要望に出来る限り応じることができた。</p>
<p>参加者の幼稚園理解と、育児向上を目的とした幼児教育の経験者や十文字学園女子大学幼児教育学科の教員等による講演「はらっぱ」(全4回)を外部の方だけでなく、園児の保護者にも参加を推める</p>	<p>C</p>	<p>今年度は諸事情により、園外、園内への「はらっぱ」開催について発信が行き届かず、在園の保護者やいちご組の保護者の参加が例年に比べ少なかった。次年度は、保護者の子育てに役立ち、本園の保育理解につながる講演を企画し、参加を広く呼び掛けるようにしていきたい。</p>
<p>日時を決めて、園長・主事が保護者の相談を受け、解決出来ない問題については、十文字学園女子大学の教員等に繋げる。</p>	<p>C</p>	<p>今年度は諸事情により、保護者の相談に応じる機会を十分に持てなかった。次年度は、園と保護者との風通しをよくして、保護者の相談に十分応えられるようにしていきたい。</p>
<p>十文字学園各校の実習生に加え、市内の中学生の実習等を出来る限り受け入れる。</p>	<p>A</p>	<p>例年通り、受け入れることができた。今後、近隣学校関係者との連携をさらに深めていきたい。</p>
<p>幼小連携の観点から、積極的に小学校との交流をし、園児がスムーズに小学校生活に入れるようにする。</p>	<p>A</p>	<p>野火止小学校との交流(1年生が園に来る、園児が小学校訪問)を実施し、互恵的な交流ができた。</p>
<p>他園の保育者からの参観申し込みを出来るだけ受け入れる。</p>	<p>C</p>	<p>教員体制に余裕(育休4名)がないこともあり、他園の保育者の参観を受け入れる体制にはなかった。</p>

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	教員体制に余裕（育休4名）がない1年であったが、概ねの計画は達成された。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育者のさらなる資質向上を目指す	長期的な視点に立って、年齢や発達段階に応じた環境の在り方、保育者の援助について共通理解を図り、実践する。日々の実践を記録し、丁寧に振り返り、園全体の保育改善に努める。
保護者が園と関わる機会を増やす	園の保育に保護者が参加する機会（親子参加の催し、保育ボランティアなど）や、保護者同士の交流の機会を増やす。 保護者が気軽に相談したり、保護者同士でも支え合ったりできるよう、園長・主事・担任などが懇談や相談の機会を適宜設定する。 父母会の活動に出来るだけ園長が出席し、保護者と園との風通しをよくして、保護者の要望等を受け止める
近隣の様々な関係者との連携、連帯を深める。	大学の授業や地域連携のプロジェクトに積極的に協力し、連携を深める。 大学教員や他園の保育者からの参観申し込みを受け入れる。 10年前から継続している「はらっぱ」（十文字女子大学の教員や、外部講師による講演会）について広く発信して、近隣の子育て家庭の参加を広げていく。

学校評価シート（学校関係者評価）

幼稚園 学校関係者評価委員会
日 時 令和2年6月26日（金）
15時～16時30分
出席者 外部評価委員（4）人
内部評価委員（2）人

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

適切であった

2. 評価結果の内容は適切であったか

概ね適切だと思うが、少々評価を厳しくつけすぎているのではないかな。
色々な諸事情を考えると、もう少し、評価を楽にしてもいいのではないかな

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

今後の課題については、無理なく取り組めるように設定されているため概ね適切だと思う

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

適切である。